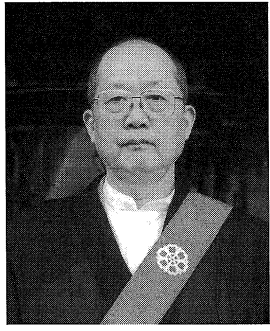


# 市仏連会報

発行所  
 横浜市中区大平町96  
 光明山西有寺内  
 横浜市仏教連合会  
 電話(045)661-0166

## 寺院仏閣・仏像を拝して 教わる歴史

横浜市仏教連合会  
 会長 都 築 哲 信



今年の秋の仏跡参拝の旅は奈良・京都でした。奈良・京都は日本の仏教の原点でもあり、日本人の思想の原点でもあります。今回、今までやもすると忘れがちになる、日本人の思想の原点に立ち返って仏像に対面したことは大変意義のある参拝でした。更に今回、長谷寺の本堂が国宝に、梅小路蒸気機関車庫が重要文化財の指定を受けたことは大きな意義があります。

想の原点でもあります。今回、今までやもすると忘れがちになる、日本人の思想の原点に立ち返って仏像に対面したことは大変意義のある参拝でした。更に今回、長谷寺の本堂が国宝に、梅小路蒸気機関車庫が重要文化財の指定を受けたことは大きな意義があります。

いるようです。日本人でありながら仏像を見たこともないと言う人達が増殖されております。更に核家族化で家に仏壇のない家庭が増加すると、ご先祖という家庭の中心が無くなってバラバラの家庭が多くなり、自己中心の人間が成長してしまっています。毎日の極度の生活苦に攻められている人達は勿論多くありますが、街には品物が溢れております。スポーツに熱中し、ファッションやグルメが関心の的となり、スキヤンダルがマスコミによって報じられると、多くの目がそちらに向いてしまふ、一見どこから見ても恵まれた国です。そのためか自己中心となり、世界の中で日本の置かれた立場や国益などに無関心の輪が広がっております。マスコミの影響もあり、一般市民は極度のナショナリズム不在の国家・国民になってしまいました。

先般の中国北京におけるサッカーのアジアカップで、中国人が爆発させた反日感情はテレビに映し出されて余りの凄さに驚きました。中国は一党独裁で批判が許されず、ナショナリズム丸出しの教育を徹底させており、中国政府に対する感情を向けております。中でも反発の矛先を特に日本に向けて十四億国民の統一を纏めております。しかしこれは、太平洋戦争の時に日本軍部に対する批判を許さなかつた日本とよく似ており、いずれも一般の国民が大変な被害者となっております。

しかし、先般、中国で発見された日本遣唐使の墓誌発見のニュースは感激を深めるものでした。唐の都・長安のあつた中国・西安で八世紀前半に阿部仲麻呂らと共に遣唐使として渡りながら、現地で亡くなつた日本人留学生の墓誌が見つかりました。玄宗皇帝が留学生の人生や死を惜しんで高官の役職を贈り、その中に本人の名前と共に初めて日本の国名が出ています。今回、発見された墓誌は凡そ一二〇〇年前の唐と日本の信頼関係の証とも思われます。

仏教の教えとそこから表現される仏像は中国と日本をつなぐ愛であります。より多くのの人々に寺院・仏像の参拝を喚起しなければなりません。

### 市仏連役員名簿

名誉会長	大道晃仙
顧問	志村慎吾
顧問	森山正成
顧問	滝川覚道
顧問	横山敏明
顧問	齋藤隆法
顧問	福永隆昭
参事	都築哲信
副会長	玄野孝善
副会長	川上敬吾
専務理事	林田真成
會計	橋下賢明
會計	秋山智謙
時局対策委員長	
会報担当	佐藤功岳
会報担当	備前恭忍
監事	関水俊道
監事	丸地良信
監事	森岡隆冲
常務理事	各区仏会長

### 区仏会長名簿

鶴見区	智廣寺 橋本正博
神奈川区	本覚寺 守長尚文
西区	萬徳寺 横山正彦
中区	東福院 上柳毅明
南区	興禅寺 市川智彬
保土ヶ谷区	正福寺 山本尚享
磯子区	大聖院 鷲雄興勝
金沢区	長昌寺 石澤彰文
港北区	貴雲寺 渡辺道春
都筑区	長王寺 山本信行
緑・青葉区	萬藏寺 河本岡文
戸塚区	圓福寺 福田俊光
瀬谷区	最勝寺 柳沢柳丸
泉区	本興寺 浅井玄裕
栄区	般若院 星野英秀

### 涅槃会打合せ

第三十回涅槃会の第一回打合せ  
 11月15日、東福院(中区)

### 県慰靈堂出仕当番表

平成16年10月	港北区
平成16年11月	金沢区
平成17年4月	中区
平成17年6月	保土ヶ谷・旭区
平成17年10月	鶴見区

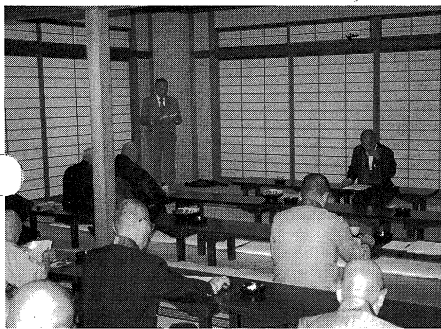
(原則毎月5日、休日順延)

# 第三十一回総会開催

平成十六年五月十八日(火)の午後二時より、中区西有寺様で当会の第三十一回総会が開催された。先ず、開会の言葉・玄野孝善副会長、次に都築哲信市仏連会長の挨拶と進み、議長に西区仏教会長の横山正彦師が選出された。出席者の過半数の賛成で成立すると宣し、議案審議に入る。

- (1)、平成十五年度事業報告、林田眞成専務理事。
- (2)、時局対策委員会よりの報告、本多康興委員。
- (3)、平成十五年度決算報告、秋山智謙会計。
- (4)、会計監査報告、丸地良信・森岡隆沖の両監事。五月十日に監査を致し適正でありました。
- (5)、以上承認の件、全会一致で承認された。
- (6)、平成十六年度事業計画案、林田眞成専務理事。涅槃会開催の件、第三十回記念として、担当の中区仏教会に市仏連が企画の段階から関与協力して行きたい旨。
- (7)、時局対策委員会活動案、本多康興師。顕在している諸問題の研究。葬儀ディレクター、石材ディレクター、仏壇ディレクター制度を業界が充足させたが、仏教会への相談が全く無い。それから、市仏正しい葬儀ネットの運営について。一件につき手数料三万円を市仏連に納入。内訳はネット維持費が一万円、広告宣伝費が二万円

ある。市仏からの助成金は、二〇万円は通信費で消える。賛助金が必要である。本日、その是非を審議いただきたい。一年間にどのくらい支出となるのか、その目安を示してほしいとの間に、ポスター一千枚が四十五万円、送付料金三〇〇円×四六〇ヶ寺で約十四万円也。神奈川新聞に一ヶ月一回の広告を出す費用が十二ヶ月で約六十三万円也で合計一三三万円の経費、それに事務所維持費が約二十八万円位を加えた総合計が一五〇万円となる。収入として少なくとも三〇〇件。五〇件の葬儀があれば楽である。賛助金は一口、一万円でも何口でも可。育てていく資金ということである。先ず全寺院に周知徹底のため趣意書を作成してほしい。自由意志を尊重し柔らかい文面にして、



ネットを育てて下さい。そのため賛助金(寄付金)であるという表現を盛り込んでほしい。毎年、寄付を募るのか。状況により来年もお願いすることは大いに有り得る。核心に触れた意見、提案をいただき、誠にありがたい。

(7) 平成十六年度予算案、会計・秋山智謙師。第三〇回記念涅槃会ということ、特別の支出に予備費を当てる。

(9) 以上承認の件。全員一致で拍手承認された。正しい仏教葬儀ネットワーク運営に関して、一件の葬儀に対して、三万円を市仏連に納める。賛助金(寄付金)をいただく。全寺院に趣意書を送付し協力をお願いする。一口、一万円以上振込用紙を同封する。市仏連諸役と時局対策委員会に実施を一任する。

- (10)、選考委員の件、緑・青葉区、泉区、保土ヶ谷旭区、神奈川区、磯子区の各区仏の会長で構成。
  - (11) 仏跡参拝旅行の件。平成十六年六月十日。曹洞宗可睡斎参拝と菖蒲園見学の事。参加人数の確認。現在六十九名である。
  - (12) その他。各区仏の会員名簿、住所録を専務理事まで提出下さい。それから各区仏の規約がありましたら、それも林田専務理事まで提出をお願いします。
- 議長提案。横山正彦師。総会の議長を各区仏の順番制にする。二区単位。前もって議案書を送付し、熟知して貰う。事業報告と決算の議長、事業計画と予算案の議長とする。十五区仏あるから七年に一

度巡ることになる。総会の出席者増加と責任感を持たすことに一石を投じる貴重な提案だから役員会で検討する。

市釈尊奉讃会よりの報告。程木昭徳事務局次長。本年度総会も五月八日に無事修了。二十年前には七〇〇名の会員でしたが現在は二八〇名です。前年度も会員の高齢化で二〇名の脱会者がありました。春と秋の仏跡参拝旅行、涅槃会行事と年三回、大きな活動をしており、奉讃会だよりも年二回発行しています。入金金二千円、年会費二千円です。今年度も会員増強に皆様のご協力、ご支援を一段とお願い致します。

花まつり等各区仏の行事への助成金の一万円支給は、区仏よりのご請求がないと執行できません。都筑区仏よりのお知らせ。七月十日にチベット交流協会のチャリティコンサートを行います。ご支

援の程、宜しくお願い申し上げます。

閉会の言葉・川上敬吾市仏連副会長。

おわって西有寺様のご配慮の料理で懇親会となり、楽しいひとときを有意義に過ごした。午後四時半頃に散会した。



「市仏ネット説明会」H15.11.10 於 西有寺

## 市 仏 ネット 予 算

科 目	収 入	摘 要
協賛金収入(旧手数料)	¥300,000	¥30,000×10件
賛助金収入	¥1,200,000	市仏会員寺院から勧募
収入の部 計	¥1,500,000	

科 目	支 出	摘 要
事務委託料	¥100,000	¥10,000×10件
ポスター企画制作費	¥449,400	1ヶ寺2枚づつ配布 計1,000枚
ポスター送料等	¥135,300	千代等 ¥300×451ヶ寺
広告掲載費	¥577,500	神奈川新聞/連合通信社へ11ヶ月分
予備費	¥237,800	
支出の部 計	¥1,500,000	

時局対策委員会予算：  
市仏連から市仏ネット予算とは別に委員会運営費20万円を支出していただき、それをもとに当委員会の運営をします。

### 時局対策委員会 平成16年度事業計画：

1. 市仏ネットの運営及び研究
2. 顕在している諸問題の研究
3. その他

横浜市仏教連合会 平成15年度収支計算書

収入金 2,401,748円
支出金 1,776,162円
差引額 625,586円
(自平成15年4月1日～至平成16年3月31日)

Table with 4 columns: 科目, 予算額, 決算額, 差引増減 Δ. Rows include 1 会費収入, 2 雑部金, 3 過年度収入金, 4 前年度繰越金, and 合計.

Table with 4 columns: 科目, 予算額, 決算額, 差引増減 Δ. Rows include 1 総務費, 2 需要費, 3 事業費, 4 助成金負担金, 5 雑支出, 6 予備費, and 合計.

次年度繰越金 625,586円

平成16年5月10日

上記のとおり収支計算書を提出致します。

横浜市仏教連合会 会長 都築哲信

会計 柳下賢明

会計 秋山智謙

監査の結果相違ないことを認めます。

監査 丸地良信

監査 森岡隆沖

横浜市仏教連合会 平成16年度歳入歳出予算書

歳入金 2,380,586円
歳出金 2,380,586円
差引額 0円
(自平成16年4月1日～至平成17年3月31日)

Table with 4 columns: 科目, 予算額, 前年度予算額, 差引増減 Δ. Rows include 1 会費収入, 2 雑部金, 3 過年度収入金, 4 前年度繰越金, and 合計.

Table with 4 columns: 科目, 予算額, 前年度予算額, 差引増減 Δ. Rows include 1 総務費, 2 需要費, 3 事業費, 4 助成金負担金, 5 雑支出, 6 予備費, and 合計.

平成16年5月10日

上記のとおり歳入歳出の予算案を提出致します。

横浜市仏教連合会 会長 都築哲信

会計 柳下賢明

会計 秋山智謙



# 第二十一回春の仏跡参拝旅行

## 静岡・可睡斎



平成十六年六月十日(木)の七時半に、天理ビル前から五〇名が、都筑区の大善寺前から三十五名がバスに乗り、海老名サービスイリアで合流し、一路、静岡県に向けて発車。

雨の心配もあつた天候だが、徐々に晴れ、有意義な可睡斎参拝と菖蒲園見物を無事に行うことができた。

可睡斎に十一時十分に到着し、本堂前で記念写真を撮り、本堂内で般若心経を唱和し動行をした。都築哲信市仏会長と釈尊奉讃会の増島和亥会長が挨拶をされた。伊東盛照斎主老師が不在のため代理の和尚様がお話をしてくださった。



うぜん) 大和尚は、幼い徳川家康を戦乱から救ったことがあり、後に家康が浜松城主となった折、報恩の為に城に招かれた等膳和尚はその席でコックリ、コックリと居眠りを始めた。その姿を見た家康は、和尚の親愛の心を悟り、「睡る可し、ねむるべし」(御前にて睡っても無礼ではないとの意)と言ひ、「可睡和尚」と愛称せられ、寺号も東陽軒から可睡斎と改め、後に十万石の待遇と徳川幕府最初の僧録司職を与えられた。秋葉三尺坊大権現は三七〇年前、秋葉寺で修験者による騒乱が起き、僧録司の可睡斎の住職が幕府に提訴し、その窮地を救った。その立役者の道中雲達大和尚を帰路の箱根山中で修験者の一部が待ち伏せをして暗殺した。その大事件後に秋葉寺は当寺の末寺となり、三尺坊大権現の分霊を献上した。明治時代の始め御本体も当斎に遷座された。このたび三七〇年ぶりに秘仏の別伝秋葉三尺坊大権現が特別開扉され内陣参拝ができる。その三大誓願、第一我を信ずれば、失火と延焼と一切の火難を逃す。第二、病苦と災難と一切の苦患を救う。第三、生業と心願と一切の満足を与える。今年は今、明治十四年に大本山永平寺より道元禅師の御遺骨一願を賜り奥殿に奉安された、平和祈年祭にちなみ、高祖廟の特別



参拝ができた。ぼたん苑の花の時は過ぎたが、客殿の縁に鉢植えのボタンの花を見ることができ、隣接地の可睡ゆりの園は三万坪に広がる、世界一五〇余品種のゆりの花が今、真つ盛りにと咲いている。

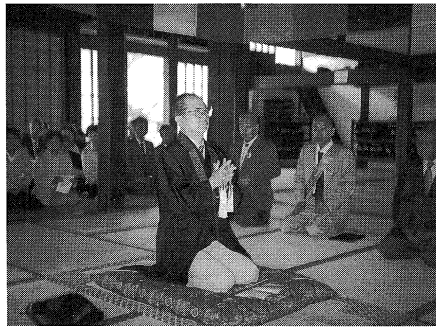
三尺坊ご真殿で導師、大衆十人による大般若転読会大平和祈禱を拝受し、高祖廟に詣で、大客殿で五観の偈を唱え、古代米のご飯等、雲水さん手づくりの精進料理をいただいた。そして、可睡斎の名所の一つは大東司(トイレ)である。

また、可睡斎は現代のニーズに応えた修行寺でもある。ユニットケアという新型特養「萬松の里」社会福祉法人特別養護老人ホームを境内遊休地に建設し、運営を始めた。永年にわたり社会に貢献してきた地元のお年寄り達の心を癒し、心安らかに余生を楽しんで頂くという介護支援事業を通して少しでも地域社会公共福祉の為

に寄り寄りしたいと発願の福祉実践の現代寺院でもある。

可睡斎を後にして、掛川市の加茂花菖蒲園に二時頃に到着した。四十分間、水田に花咲く菖蒲を眺め、園内散策を満喫した。水すまし、蛇、蛙が花株の間を泳ぎ、アジサイの花が園の周囲に沢山植えられている。ハウスの中はベコニアなどの原色鮮やかな花が咲き誇り、世界のフクロウ鳥が数種類飼育され、身近にみられた。

帰路は、焼津の水産物店で土産品を求め、夜六時半頃に横浜に帰り着いた。勸行寺、長昌寺、見光寺、東泉寺、西福寺、妙光寺、東照寺、常真寺、金蔵寺、松隆寺、西量寺、西有寺、保福寺、貴雲寺の各住職、檀信徒の各位八十五名が協力、参加された。



雲水修行記「作務」  
作務(さむ)というのは、単なる作業ではなく、動く禅として特に重要な修行である。内外



の掃除や草取り、香炉の灰ならしなど、全ての作業が作務と言える。私は毎朝大東司(お手洗い)の清掃作務をしているが、はじめは汚れているから綺麗にしようと思っていた。しかも禅の修行では、綺麗であつても更に綺麗にするという心の持ち方を養うことである。東司は汚い場所と思われがちだが、私は健康を守って下さる場所として真剣に掃除をしている。また作務の中で一番神経を集中させるのは香炉の灰作務である。道具を使つて灰の表面をならすたびに、しばらく息を止め、静かに押さえないように丁寧に、綺麗さがつかないように、まるで揺れの無い水面の如くに仕上げられるのは並大抵のことではない。毎日の作務の積み重ねの中でなんとかやれそうなどころまで来た様に見える。六月十六日は首座和尚として修行僧を相手に大禅問答を交わす法戦式に臨む。日に日に胸の鼓動が高つて来る。

可睡斎発行の機関誌『道光』に寄せられた一文より転載



# 秋の仏跡参拝旅行

## 奈良・京都方面

今年の秋の仏蹟参拝は、九月十日〜十日月二日に、奈良・京都方面を目指して行われた。台風21号の上陸で、決行が懸念され、とりあえず新横浜へ集合してから：というような始まりの今年の参拝旅行であった。幸い仏様の御加護であろうか、台風勢力も衰え、進路がずれて好天の兆しの中、「ひかり」は西へ。

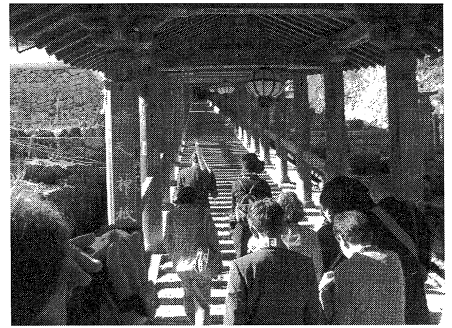
名古屋から、バスで一路奈良方面を目指す。いわゆる伊賀忍路越えである。東名阪自動車道が整備され、険しい山道も難なく昼食地上野のサーブエリアに到着。ここから室生寺までは一息である。旧街道へ入ると、谷川に沿ってどこまでも続く一本道。正に深山幽谷の地である。いつしか、ぼつ



かりと門前の賑わいが開けた。女人禁制の高野山に対し、女性への救済の門戸を開いて、女人高野の異名を持つ。太鼓橋を渡り、仁王門からは急な石段が続く。早く、「有名な五重の塔にめぐりあいたい」、そんな思いでどれほど多くの人の足を速めたことか。塔は、かなり上段にあるが、途中の国宝級の建物と仏像も見逃してはならない。この谷あいによく保存されてきたものである。

数年前の台風により破損した五重の塔は見事に修復されていた。壊された悲劇よりも、むしろ、最近まで多くの大木の中で守られてきたことの方が奇跡的に思えた。周囲に今なお倒れて残っている老木が、唯一、惨劇の過去を語ってくれていた。古い歴史と守られてきた文化に圧倒された。

続いて真言宗豊山派総本山長谷寺を訪れた。ここは、当会役員の前師が長らく修行された寺でもあり、特別法会中にもかかわらず、格別の配慮をいただき、ゆつくりと有難い参拝をさせていただいた。天に向かって伸びるような登廊と呼ばれる回廊。緩やかな石段は三百九十九段。「四(死)に到らず」の意味であるとも。登り詰めた所に、日本一大きな木造仏、本尊十一面観世音菩薩立像を安置する本



堂があり、清水の舞台よりもはるかにスケールが大きく、大和の連山を一望できる。さらに感動するのは、すべてが参詣者に優しく、救済の手足を広げてくれているところである。観音礼拝の場所も外舞台から、拜殿から、中廊下からと多彩である。そして、お足元と呼ばれる観音様の直下から、足元を触れてお参りできる、他に例を見ない開かれた菩薩様なのだ。その御足は、長年の多くの善男女の手で、見事に黒く漆が光っている。

一同、恐る恐る国宝を手にし、正に観音様のお慈悲に触れる面持ちであった。

初日の宿泊は、靈山信貴山である。奈良から大阪方面の生駒の山並みにある真言宗系の祈禱寺院で朝護孫子寺という。聖徳太子の創立とも伝えられている。境内に足を進めると、虎のはりこや石造物が目に見える。聖徳太子がご利益に預つたのが寅の年・月・日であったことより、ここでは幸運をもた



らす象徴としてトラがキーワードになっている。宿坊ということであるが、ホテル並みに綺麗に整備され、二の膳のついた夕食は、手の込んだ精進料理で美味しかった。特に「とろろ磯辺」と名のついた揚物は、鰻の蒲焼を模したもので見事な出来栄であった。早朝は、浴油堂で護摩のご祈禱があると聞き、宿泊者の有志が、まだ薄暗いお堂に参詣し、厳かな護摩火の炎に心洗われる思いであった。外に出ると、すっかり周囲は明るくなり、満月を少し過ぎた月が白く山の端に傾いていた。続いて参列した朝のお勤めが行われた本堂前の舞台はまぶしいほどの光に溢れ、奈良盆地を見渡すことができた。

二日目は、法隆寺の参拝から始まった。世界最古の木造建築の寺。朝一番の訪問であったためか、参拝者も少なく秋晴れの中、ゆつくりと拝観できた。五重の塔、金堂、夢殿…。どれも超有名な建物ばかりで、堂内の仏像や文化財も国宝のオンパレード。広大な境内であるが、特に、用地移転の強制執行で有名になった山門前の一角は、すつきりと広々していた。

飛鳥の地を訪れた。石舞台、高松塚古墳など、聞きなれた名称の表示が並び、考古学の宝庫といわれる地だけに、どこを掘っても遺跡が詰まっている実感の地である。この地区に入ると、ガイドさんの説明の通り、コンピ二も、立て看板もなく、家屋はすべて瓦葺である。条例で決められているとか。協力する住民の努力も大変なものだ。昼食の「柿の葉ずし」は、柿の葉でおし寿司を包んだもので、参加した各師にも、美味しくて好評。古代のロマンの地の味はまた格別であった。今回は沢山の仏像を拝顔したが、飛鳥大仏の威厳と歴史の重みには一同感慨深げであった。

二日目の宿、京都への道は、生駒山系の南を大阪に抜けて進んだ。途中、お里・沢市で有名な「壺坂靈驗記」を生んだ南法華寺(壺坂寺)を訪れた。西国六番観音札所で、桓武天皇の眼病が時の住職の祈禱によって平癒したということから、眼病平癒の信仰で賑わってきた。境内には、目薬の木、平癒祈願の札など、信仰の証が溢れていた。

京都の宿、嵐山に着く頃は、渡月橋に夕闇が迫っていた。近年、ここに温泉が湧き、賑わいを深めているとか。夕げの席では、舞妓さんの京踊りを観ることもでき、

古都の旅を満喫できた。

三日目は、当初、妙心寺を参拝する予定であったが、大法要が入り拝観停止となり、太秦の広隆寺を訪ねた。この弥勒半跏思惟像は、日本が世界に誇る彫刻の一つと言えよう。「すべてお任せ、心配はいらない」と、優しく呼びかけているように感じ、今でこそ流行の「癒し」そのものであった。お堂を出ると外は秋梅雨模様。

続いて新撰組ゆかりの地、壬生地区を訪れた。初期の屯所の八木邸は、現在もそのまま残っており、長屋門通路に立つと、あの隊士達が行き来した姿が、今このように想像される。決して広くない当時の室内も保存されていて、芹沢鴨が暗殺されたという部屋には刀傷があつたりして生々しい。お菓子と抹茶をいただき、近くの壬生寺に足を運び、隊士の墓に参った。明治維新を産んだ懸命の息吹が当時の若者達の胸中にあつたのである。勤皇と佐幕の対立以上に、

飛鳥大仏



仲間同士の凄惨な劇があつたことも悲しい。そぼふる雨が、心なしか冷たく感じられた。

京都駅近くで美味しい京都牛のしゃぶしゃぶを堪能した後、最後に梅小路蒸気機関車館で、往時のSLを肌で感じ、飛鳥の時代から現代文明までの橋渡しをしていたような締めくくりで、有意義な古都への旅を終えた。

最後に都築会長は、前にも後ろにもずれたら困つた好天の縁に恵まれたことに感謝し、またの再開を期したいとの挨拶をされた。

(参加寺院十一ヶ寺・四十名参加) 松蔭寺・貴雲寺・正覚院・金蔵寺・建功寺・長昌寺・西福寺・妙光寺・見光寺・勸行寺・東照寺・東泉寺。

### 支部だより

#### ● 保土ヶ谷・旭区

当仏教会では、毎年恒例の行事を三十年以上続けていますが、マンネリの傾向にあり若手僧侶の新しい試みに期待しています。

とはいえ今年も四月の花まつりを仏向町正福院で開催し、歌謡漫談の師匠と講談の一龍齋貞花師匠を招き、エンマ様と観音経の話で百五十名の参加があり、崎陽軒の季節おこわをお土産にしました。

六月の仏蹟参拝は、長野県の頼岳寺、諏訪大社とさくらんぼ狩り、味は山形県の佐藤錦の方が美味である。参加者は百七十三名でした。秋の仏蹟参拝は、十月に静岡県の石雲院にお参りして、ご住職の法話を頂き、その後、昔懐かしいS

近藤勇像 (壬生寺)



Lに乗り駅弁を食べながら、大井川の秋の渓谷を楽しみたいと計画しています。十二月の成道会は上星川の東光寺で、曹洞宗の僧侶を招き法話を予定して居ります。

歳末の托鉢は、一俣川駅、保土ヶ谷駅、天王町駅で行います。淨財は、毎年二十万〜三十万円位になっていますが、今回より五年間積み立てて、目に見える形での社会奉仕をと考えて居ります。

以上で平成十六年の年間行事報告とさせて頂きます。

平成十六年四月より、左記のよう

- 会長 正福院 山本 尚亨
- 副会長 香象院 四之宮弘孝
- 副会長 見光寺 林田 眞成
- 庶務 天徳院 中島 輝昌
- 会計 遍照寺 柴 義彰

#### ● 瀬谷区

瀬谷区仏教会前会長 尾崎正恵師が去る六月四日に遷化されました。師は曹洞宗徳善寺の住職を五十年、当区仏の会長を十数年

に亘り、められました。

その間、自坊の興隆はもとより、当区仏発展の為に大変尽力されました。

豪放磊落慈悲心あふれるお人柄で会をよくまとめられ、当区仏の法要式差定や、瀬谷八福神設立等に意欲的に寄与されました。

謹んで哀悼の意を表しますと共に、師の意僞をご紹介しますいただきます。

道教化徒 五十一年

去来生死 法爾如然

今後はご子息さまの尾崎正善師が後継されましたので、市仏各位さまには何卒よろしくお願い申し上げます。

#### ● 戸塚区

六月二十日戸塚区仏教会の総会を開催し三十八ヶ寺中十四ヶ寺の参加寺院があり盛会であった。

我々の仏教会でも近年代替りが進み若い住職がふえて来た。三十代、四十代の住職が多い。私達もついでこの間迄は若いつもりで居たが若い住職達に囲まれると年を取ったなあと感じるこの頃である。

戸塚区仏教会三十八ヶ寺全寺院が正任職でありますが過半数が若い住職である。今年の暑い夏、異常とも感じられた七月八月の熱い時に柵経、施餓鬼会に汗を流し特に、柵経では一日朝八時頃から夕方七時頃まで四、五十軒の檀家さんまわりをする頭がポトとしてくる。

しかし待っている檀家さんの事を思えば汗を流しながらでも何とか勤められた自分の健康な身体に生んでくれた両親に感謝をしつつ毎

日毎日を柵経に明けくれた一週間であった。一年に一回しかない総会であるので、出来るだけ全寺院が参加していただければ良いのだが私が会長になってから会員でありながら未だ一度もお目にかかれな住職が居られるのが残念であります。次回は必ず参加して下さい。お願いします。

#### ● 金沢区

春が目覚め、桜も咲き始めた四月四日に恒例の釈尊降誕会が、六浦・長生寺に於きまして第五十八回花祭り大会として厳修されました。

当日は天候が危ぶれましたが、雨に降られることなく六浦・上行寺より、お稚児、職衆、講中、大会役員の皆様を列をなして出発し、

鼓笛隊の演奏に守られながら、大会会場の長生寺に向いました。法要も式次第ののつとり、無事進行しました。過去の六浦地区大会(第五十回)では行列はできま

せんでしたが、行列をやるのとやらないのとでは雰囲気がつたぐ違いました。衣装を着けた大勢の可愛いお稚児さんが練り歩いて、父母の皆さんがその姿を撮影していたり。まさに主役はお稚児さんでした。

お稚児の参加も二十〜三十名ぐらしい予想でしたが、それをはるかに上回り、五十名を超えるお稚児さんが参加して下さいました。本当にありがたいことだと思いま

す。また、多くの関係の皆様の手によりまして、今回も無事に花祭り大会をつとめられましたことを厚

感謝申し上げます。(小野記)  
 金沢区仏教会では、去る八月二十九日に金沢公会堂で第五十四回 仏教文化講演会を開催した。当日の講師は芥川賞作家で僧侶の玄侷宗久師と落語の立川志らく師匠で、雨天にもかかわらず出席した多くの人々を魅了した。(石沢記)

### 話 材 紹 介

#### ◎お葬式はなぜするの？

北イラクにシヤニダール遺跡がある。4万年前のネアンデルタール人の遺跡である。その共同墓地の人の周辺から花粉が発見された。死者を葬るに際して花を供えていたようだ。つまり人類は有史以来、人の死にあたって葬儀を行ってきた。人の死は葬儀を必要としてきたといえよう。中略、葬式を営むということは二つの「ソウ」から成る。一つは亡くなった人を喪つて悲しむ「喪」であり、もう一つは遺体を処理し葬る「葬」である。死別を悲しむことは人間として極めて自然な感情であり、遺体を葬ることは遺された者の当然の責務である。だから「お葬式は何故するのか」ではなく、人の死は「お葬式を必要というべきであらう」

―碑文谷創著「お葬式のすべて」(大法論10月号より引用)―

#### ◎『真つ赤なウソ』

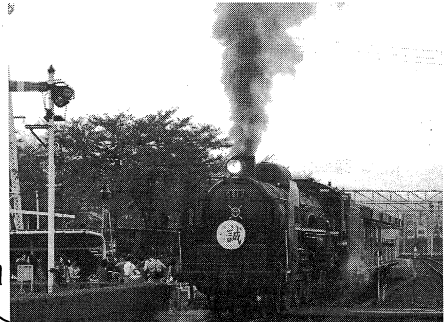
昨日も大学の先生のお通夜に行つたんですが、ご本人の意思で無宗教でやっていました。ところが参

列者は手持ちぶさたなんです。あつという間に通夜は終わりましたね。本人が無宗教だろうがなんだろうが、お葬式は生きている人のためのものなんです。そこをやつぱりもつと行ってほしいですね。本人の遺志を尊重して、葬式を無宗教でやるというのは「わがままだよ、それは」って思うし、私は実際に言っているんですよ。「生きている人が、気持ちが残つて困るんだよ」って、だから、だれかがお経をあげてくれりゃ、それはそれで落ち着く人がいるんですよ。そういうもんでしょ。

葬式っていうのは一人の人のためのもんじゃないんですよ。それを死んだ自分のものだと思つているのが、現在の典型的なやり方ですね。死んだ人を悪く言うわけじゃないけども、それは考えが足りないと思うんです。大勢の人がお悔やみに来るんだから。葬式仏教とみんな言うけども、来る人が葬式をちゃんとやつてないじゃないかって思つてしまつてますよ。もつと本気でやつてくれと。私は家族に、私の葬式は寺でやりなさいつて言っているんですよ。でも残される方が、勝手に決めたといい、そんなふうにも今は思つています。―養老鑑著「真つ赤なウソ」(大正大学出版会)

#### 涅槃会担当区

- 平成17年 第30回 中区仏教会
- 平成18年 第31回 港区仏教会
- 平成19年 第32回 金沢区仏教会
- 平成20年 第33回 南・港南区仏



#### 次期選考委員

- 緑・青葉区 野村泰勝
- 泉区 浅井玄裕
- 保土ヶ谷・旭区 山本尚享
- 神奈川区 守長尚文
- 磯子区 鷲雄興勝

#### 河本四文

### 事務日誌

- 16.4.2 市仏ネット発会式 (ホテル横浜ガーデン)
- 16.5.8 奉讃会総会於東照寺
- 16.5.18 第31回総会於西有寺
- 16.5.26 時局委員との役員会
- 16.6.7 弔電、瀬谷区徳善寺
- 16.6.10 第21回春の仏跡参拝 (静岡・可睡斎)
- 16.8.6 奉讃会だより発送
- 16.8.23 役員会於勤行寺
- 16.9.15 慰霊堂担当区へ依頼
- 16.9.17 役員会並編集委員会 於勤行寺
- 16.9.30 秋の仏跡参拝旅行 (奈良・京都方面)

### 編集後記

◎異常気象が顕著な年である。七月十三日の台風は梅雨前線を刺激して、新潟県三条市、福井県地方に大災害をもたらした。当該地域の寺院も多数、大被害を受けた。台風二十一号は九月二十九日に高知県に上陸、日本列島を縦断した。三重県宮川村や各地で土石流などで家が押しつぶされ、死者も沢山出たなどの大災害となった。十月九日に伊豆半島に上陸した台風二十二号は屋根をひんむき、トラックをパウンドさせるなど横浜や東

日本を襲った。横浜で最大瞬間風速三十九・九mを記録した。十月二十日の台風二十三号は今年十度目に日本列島に上陸した。高知県、徳島県、兵庫県の豊岡市は全域が水没した。死者八十余名にのぼる。

◎気温三十度以上の「真夏日」が横浜で七月十三日から連続三十三日も続いた。一旦は途切れたが再び真夏の暑さが戻り、彼岸過ぎて十月初旬まで真夏日が続いた。

◎九月一日、浅間山が噴火。この二十年度で最も大きい噴火で、噴石が山の中腹まで飛散し、火口の西側では山火事も発生している。

◎十月二十三日(土)午後五時五十六分頃、新潟県中越大地震が発生。震度7を記録。直後の余震は三度もあり、震度6強であった。上越新幹線脱線。川口町、小千谷市、長岡市、栃尾市など四十近い市町村の十万人が避難をし、死者三十五名となった。小千谷市の四十も全て被災した。

◎今年の八月にギリシャのアテネでオリンピックが、九月にはパリでオリンピックが開催され、日本人選手の活躍が目立ち、国民を明るくさせた。個々の選手の努力精進は並大抵のものではないことが報道されていた。

◎「市仏の正しい葬儀ネットワーク」の運営に寄付、賛助金をいただくことが総会で承認され、実施したところ、十月二十五日現在で二百万円を超える基金が百ヶ寺位から寄せられていくとのこと。大変にありがたいことである。

◎秋の仏蹟参拝旅行では、奈良・京都で千三百年も前のいにしえのみ仏様方にお会いし、各寺で参加者一同心経を唱和し供養申し上げた。み仏たちが喜んでくださったように思う。聖徳太子の古代の政争、戦争から戦国乱世、そして幕末の京都の壬生の新撰組の戦さの地であるそれぞれの寺域を巡り、慰霊と平和祈念の旅でもあった。

